

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可  
 神奈川 碩心 会 発行

6年 逗葉大合	4月 地区 地区 計	現在 地区 地区 計	会員数 181名 218名 42名 441名	6年 根編 中	4月 岸 村	(261号) 行者 萃者 愛	行集 岳 岳
------------	---------------------	---------------------	------------------------------------	---------------	--------------	-------------------------	--------------

## 五月の予定行事

○県本部総会

日時・五月八日(日)

場所・平塚農業会館

## 第104回全国吟道大会盛会に終る

3月27日東京ベイNKホールに於て行われ、今年も神奈川県本部が色々な部門で活躍、又連吟、合吟コンクールに見事入賞しました。

連吟二位(木村岳風賞) 湘南吟詠会

合吟二位( )

三位(理事長賞) 碩心会

入賞おめでとうございます。

碩心会(一色A・堀内F・真澄・逗子A)からなる女子20名が合吟コンクールに参加、全国26組中三位に入賞されました。ここまで到達するには指導者はじめ皆さんが難関を越え頑張つてこられ、御苦労様でした。

### 功労者表彰

又左記二名の方が右大会に於て表彰されました。おめでとうございます。

高令者の部 栗原文風(山ノ根)

指導者の部 千葉岳閑(逗子A)

## 奥伝合格

(四月一日付)

405 長谷川富風 421 大塚寛風 422 朝比奈泰風

423 海津勝風 430 沼田東風 431 草柳武風

628 小暮洋風

おめでとうございます。

## 「歌う」「吟ずる」について

根岸 岳 萃

一月の指導者研修の席上、岳風会には「教える」詩を「歌う」という言葉はないとお話し致しました。しかし未だに「教える」「歌う」と云っている方がいられますので投稿しました。又「教える」とは木村岳風先生も、松井岳洋先生も、一切申されませんでした。さあ、又詩吟と一緒に勉強しましょうと云われました。

岳風直門と自慢している或る先生が、詩を「歌う」と云っていられるのを聞くと、何か祖宗範を冒瀆されているようで、怒りを感じる。と吟道誌上に書かれておりました。そのことについて、私が松井先生に質問したところ、先生は「歌う」では精神が入っていないと申され、ご自身も絶対「歌う」とは申され

ませんでした。

昨年総本部の夏期吟道講座で、音楽の千葉潤之介先生が、音楽的にも「歌う」「吟ず」の違いを講義されたことが、昨年の「吟道」七月号、八月号に掲載され、それを抜粋することにした。

「歌う」「吟ずる」「語る」の違い

速度	不変	歌う	吟ずる	語る
音価	長い	長い	長い	変化
伸ばし所	語内も	語のあと	語のあと	語のあと
使用音	音階音	非音階音も	音階音も	音階音も
拍節	拍節的	非拍節的	拍節的	拍節的
音質	統一	統一	多様	多様

⊗吟ずると違う所(岳萃記)

右図のように解説していられます。速度、音価、伸ばし所等は「吟道」を参照して下さい。音楽的にも「歌う」「吟ずる」に違いのあることを記憶して下さい。

## 詩吟が好き

松井正岳

昭和52年に傾心会に入会、早いもので詩吟を始めて十七年になりました。幸いに、今迄

詩吟を重荷に思ったこともなく過ごすことができました。以前、よく先生方に言われたものでした。岳洋先生の息子さんが、なんでもっと早くから始めなかつたのか。私はその度に言訳しました。その気になつた時が「吉日」なんです！と。

そのせいか詩吟がとても好きになりました。吟ずるのも好き、他人の吟を聞くのも好き。好きな詩吟に出会えたのも、考えてみれば父親のおかげだったのでと思っております。赤ん坊の頃から子守歌代りに聞かされていたようですから。

最近よく思うことは、詩吟が好きになるには教室の指導者と仲間、つまり環境なのではないかと。この条件に恵まれるかどうかで、詩吟が好きになれるかどうかが決まる様な気がします。私は全部に恵まれていたように思います。第一に指導者に100%信じてついてゆ

けたこと。教室の仲間は皆さん熱心な人ばかり。総ての面で、面倒見のよい方達ばかりでした。

私が皆さんに申しあげたいのは、まわりの人達の吟をよく聴くこと。高段者の吟、自分より段位の下の人吟も同じことです。他人事と思わず、他人が指導者からアドバイスを受けている時は、自分に対してのアドバイスとして聴くことです。特に上級者の審査課題吟は、何れ自分に順番が廻ってくるはずで、他人からのアドバイスに聴く耳をもたなくなつた時は、その人の吟の上達は止まると云われます。皆さんの吟の上達は、指導者にとつて、この上ない喜びなのです。指導者を追い越すつもりで頑張して下さい。それが恩返しにもなるのです。以上のことに心をおいて、詩吟の勉強をしてみませんか。きっと詩吟が好きでたまらなくなると思います。

別表	支部	支一	支二	支三	支四	支五	支六	支七	支八	支九	支十	支十一	支十二	支十三	支十四	支十五	支十六	支十七	支十八	支十九	支二十	支二十一	支二十二	支二十三	支二十四	支二十五	支二十六	支二十七	支二十八	支二十九	支三十	支三十一	支三十二	支三十三	支三十四	支三十五	支三十六	支三十七	支三十八	支三十九	支四十	支四十一	支四十二	支四十三	支四十四	支四十五	支四十六	支四十七	支四十八	支四十九	支五十	支五十一	支五十二	支五十三	支五十四	支五十五	支五十六	支五十七	支五十八	支五十九	支六十	支六十一	支六十二	支六十三	支六十四	支六十五	支六十六	支六十七	支六十八	支六十九	支七十	支七十一	支七十二	支七十三	支七十四	支七十五	支七十六	支七十七	支七十八	支七十九	支八十	支八十一	支八十二	支八十三	支八十四	支八十五	支八十六	支八十七	支八十八	支八十九	支九十	支九十一	支九十二	支九十三	支九十四	支九十五	支九十六	支九十七	支九十八	支九十九	支百
0	1	2	7	7	1	1	1	1	1	2	(8支部・181名)																				8	1	3	4	6	1	4	6	5	1	3	1	3	6	2	8	1	(12支部・218名)										1	3	4	7	1	8	(4支部・42名)				計24支部・441名																																	

註… 葉解 月支 部散

## 仙元山と田原坂

風 早 堤 誠 山

平成二年の夏、風早支部の石川豊岳さんから「吟詠をやってみませんか」と誘われたのが碩心会との出会いでした。入会した年の秋、葉山町文化祭で初めて吟じたのが「田原坂」民謡入りの吟でした。そして又、昨年から家内（寿山）が、中村京愛先生の御指導を受け詩舞を始め、文化祭に私の吟で「田原坂」を舞いました。私達の郷里は熊本県で、田原坂に程近い所にありますので、田原坂を思い浮かべながら一生懸命に吟じ、舞いましたことは、一生私達の心に残り、葉山と田原坂がますます身近に感じるようになりました。

私達が葉山に住みまして一カ月経った頃、仙元山の桜花に誘われ山に登りました。満開の桜の下で、眼下に広がる海を眺めながら弁当を喰べ春を満喫、頂上に立つ記念碑をみると、表面に「拓魂碑」と刻まれてあり、何の碑かなと思ひ哀側にまわり碑文を見た瞬間、思はず大きな声を出していました。そこには郷里の地名が刻まれていたからです。碑文に

は

明治十年三月十五日熊本県肥後ノ国玉名郡  
横平山ニテ戦死ス 守屋 半次郎  
明治十年三月廿日同県山本郡向坂ニ於テ戦  
死ス 小峰 留治郎

とあり、驚きとともに、こんなに遠くの地から西南の役に参戦されていたのかと感慨無量でした。

田原坂は、坂下から頂上に向つて、一の坂、二の坂、三の坂と三つの坂があり、当時は熊本鎮台に通ずる重要な道で、越すに越されぬ田原坂と、民謡にありますように、官軍、薩軍共に死守し、激戦がくり返された所で、子供の頃から戦闘に纏わる話を祖父から聞かされていたので、想いは一入でした。

「横平山」は、佐々友房が守っていた吉次峠付近で、三月十五日未明、薩軍抜刀隊による急襲と、これに反撃した官軍抜刀隊（巡查）等の激戦がくり返されたところだそうです。「向坂」は、田原坂で破れた薩軍が潰走途中新たに精銳が加わり、薩軍が反撃に転じ、激戦となったところだそうです。

時移り西南の役は遠くなり、又国道218号線の開通で田原坂は裏通りとなっています。附

近の山は田原坂公園となり、官軍、薩軍戦死者全員の氏名が刻まれた記念碑が立ち、当時の民家が「弾痕の家」としてそのまま保存され、歴史資料館には当時を忍ぶ数々の遺品が展示されています。又戦跡の各地に官軍、薩軍の墓地があり、子供の頃から毎月清掃を欠かしませんでした。今もきれいに整備清掃されて、供養も行なわれています。

詩吟をはじめてあれから三年、杉山雪岳先生の、ご熱心で適切なご指導と、支部の皆様からの暖かい援助に支えられて、ご迷惑をかけながらも、和やかに楽しく勉強しています。吟も舞も、健康と頭の体操の為といつて六十の手習いで始めましたが、最近練習日の朝から「ソワソワ」時間がくると「イソイソ」と家を出ます。顔には三十二の年輪があります。後姿をみていると若返ったようで、私も嬉しくなります。夫婦で同じ趣味を持ち、吟の練習もお互いに励ましあい、吟や舞に連なる会話も自然と多くなりました。

春夏秋冬観光客で賑わう田原坂の桜花、つじの花見等々を毎年二人で楽しんできた私達ですが、今年も仙元山に登り、遠く故郷「田原坂」に想いを馳せたいと思います。

力を出しきり師範受審

杉山 雪岳

寒が明けたばかりの去る2月6日、師範研修講座に傾心会から五名が参加しました。

9時30分開講式にはじまり、木村岳風先生と詩吟学院(オートスライド)45分を見る。

強い意志で詩吟の普及に努力した遅しとは別に、スクリーンに写し出されるやさしい顔、

祖宗範木村先生を知らない私には、故松井岳洋先生の生前の姿がだぶつてみえるのでした。

筆記試験、絶句二題が直前に出題される。白文に、かえり点、おくりがなを書き込み、

次に吟符を入れる。二題の絶句は、それぞれ少しづつ吟符が違い、難しいが何とか思い出しながら書く。次は実技で最も苦手。平静さをよそおいながらも胸が痛い。今日一日の力を出しきり、102番、山行を吟じ終える。

五時限、師範の心得として詩歌の鑑賞、吟詠のセンス、表現等講座のあと、4時30分閉講式となる。

結果はまだ分りませんが、迷って受けた試験だっただけに、吟道は気を養うの道なり、

今の心境です。

...

総伝会に出席して

大船A 岩崎 岳恵

すっかり春めいた三月六日、平塚農業会館に於て第10回総伝会が開催されました。

今年の新総伝会者13名の中7名の出席者を含め93名が参加、開会の辞につぎ新総伝会者が紹介されました。来し方を振り返り、入門以来28年、先生方や皆様方に色々お世話になりながら、漸く辿り着いた総伝の重みを痛感し、

心新たに頑張つてゆきたいと思ひます。

(住所変更)

5 三井岳臨<sup>236</sup> 横浜市金沢区六浦1-9-38 (逗子A) ☎〇四五-七八二-七八四六

(移 籍)

186 青木梅風 葉月より真澄支部へ

187 金子訓風 葉月より真澄支部へ

188 菊地光風 葉月より真澄支部へ

334 石井笑風 葉月より鋼詠支部へ

335 石井成風 葉月より鋼詠支部へ

378 木村紀風 堀内・Gより逗子A支部へ (入 会)

721 佐々木邦山(簡) 逗子市池子三-八一-一四 (若 葉) ☎〇四六八-七三-〇六三六

722 松尾 顕 横須賀市公郷町一六

(逗子A) ☎〇四六八-五一-四六二七

723 諸橋公平 横須賀市長井三-六一-二五

(逗子A) ☎〇四六八-五六-二七-一三

724 石川吉江 横浜市泉区新橋 九五三-一三

(真 澄) ☎〇四五-八一-四五一六

725 高橋とも子 横浜市戸塚区川上町 318-45-102

(真 澄) ☎〇四五-八二-一七四〇八

726 葉山敏子 逗子市逗子四-一-二二

(真 澄) ☎〇四六八-七三-二六-一二

727 藤村順子 逗子市桜山六-一九-一三

(真 澄) ☎〇四六八-七二-〇六七三

728 渡辺英子 横浜市西区楠町一六-一五

(真 澄) ☎〇四五-三一-一五三四八

729 牧野江佐子 逗子市久木三-一三-一七

(真 澄) ☎〇四六八-七一-八一-三三

730 赤坂はるを 横浜市泉区百合台2-11-10

(大船B) ☎〇四五-八一-一四〇〇四

(退 会)

38 南部政岳(堀内A) 116 橋本果風(銀 詠)

125 千葉美岳(堀内D) 163 森 貞風(大船B)

350 藤村千風(若 葉) 572 長瀬雅泉(吟 秀)

630 大貫高泉(唐木山) 667 村木清美(真 澄)